

金属団地ニュース





2月度月例会開催

2月18日(月)の正午より、組合研修センター 3階にて2月度月例会が開催されました。

今回は講師に岐阜信用金庫 業務推進部 長坂勇幾氏をお迎えし、『平成31年度の行政施策の概要』をテーマにご講演をいただきました。1時間という限られた時間でボリュームのある内容でしたので、少々早口な説明となったようですが、本日の資料を各企業に持ち帰り、使えそうな補助金には積極的にチャレンジをし、業績向上の一助として下さい。



『原価管理とコストダウン』の開催

2月5日、原価管理とコストダウンの研修会を組合研修センター 3階集会室にて開催いたしました。労務委員会が企画し(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構岐阜支部の補助を受け講師に(一社)日本経営協会、経営コンサルタントの鈴木淳先生をお招きして、団地内企業8社、13名の管理者及び管理者候補に参加していただきました。

研修のねらいとしまして、工場における本当の原価を学ぶと言うものです。

見積時の価格設定や個別製品の利益管理を始めとし、製品群毎の得手不得手、顧客別の利益貢献度の把握による自社の方向の決定判断基準には「本当の原価」を常に計算し管理することが不可欠であります。これらの基本的考え方から計算方法まで事例や演習を通じ学んでいただきました。

9時30分～16時30分までの長時間の研修会となりましたが、是非ともこの研修会で学んだことを活用し自社に役立てていただきたいと思います。



タイ視察研修を実施

【土曜日 プロローグ】

平成最後の年となる今年2月9日～13日の日程で、海外視察研修を実施いたしました。川崎岐阜協同組合や岐阜県可児工業団地協同組合といった他組合が海外研修を度々実施するなか、金属団地としては未だ実施したことはなく、この度今井理事長号令の下、タイへ行く運びとなりました。実施にあたっては、岐阜信用金庫バンコク駐在員事務所の高橋所長並びに埼玉県タイサポートデスクにご尽力いただき、タイローカル企業と埼玉



から進出してきた企業、大垣に本社を置くタイ丸順社様の視察と懇親ゴルフ、懇親会をセッティングしていただきました。

2月9日午前11時、セントレアから飛び立った10名は、スワンナプーム国際空港に16時到着(日本時間18時)バンコク市内宿泊先のマンダリンホテル マネージド バイ センターポイントで先乗りの1名と合流、ホテルでお出迎えをしていただいた高橋所長との挨拶を終え、バンコク市内にあります『マンガツリーレストラン』に移動、今井理事長は翌日の懇親ゴルフからの合流ということもあり、鳥山副理事長の乾杯の発声により始まった夕食は、まるでこれから始まる視察研修の決起大会のようでした。日本よりも2時間時差があるとはいえ、翌日の出発がゴルフ組は朝5時40分、遅い観光組でも6時50分ということで、夕食後早々にホテルに戻っての就寝となりました。

【日曜日 ゴルフ組】

朝5時のモーニングコールで飛び起き、5時40分にゴルフ組はホテルを出発しました。辺りはまだ闇に包まれ、バスの車内でホテルにて用意してもらった朝食をほおぼりながらアユタヤ方面へ高速道路を揺られる事約1時間半、目的地のバンサイカントリー倶楽部に到着しました。27ホールの広いゴルフ場です。タイでは料金先払いの為、受付と同時に会計を済ませます。グリーンフィ 2,000Baht、カート700Baht、キャディフィ 350Bahtの合計3050Baht(約¥11,600)と日本より若干安めの設定です。出発前に今井理事長から「キャディーの顔をよく覚えておくように!」と注意されましたが寝ぼけてすっかり忘れており、受付を済ませた後に自分のバックを見つけるのにちょっと苦労しました。まさかバスからバックを下ろしてくれた人が自分の専属キャディーさんになるシステムだとは…ゴルフ場の係員さんかと勘違いしていました。何十人もいるから全然探せない(笑)

本日は金属団地7名、埼玉3名、現地3名の13人3組でのラウンドです…あれ? 1組目が5人になっています。スコアカードは6名まで記入出来るようになっている為これが普通らしい。抽選機(金属の棒)も無い、各自に専用カートと専属キャディーさん…と、スタートする前から日本のゴルフ場といろいろ勝手が違います。コースは一見平坦で隣同士のコースが繋がっている為に「OB出ないから簡単な!」と思いましたが、アンジュレーションがついたフェアウェイと高速グリーン、そこかしこにある池、短い割にボールが沈み込むラフ…といろいろ考えられています。個人的には砂が入って無いバンカーによく捕まり難所となりました。それにしてもフェアウェイを4台のカートが走り回る様はマリオカートをやっているみたいで面白かったです。日本の様にゴルフ場が集計をしてくれない為、コンペの形にはしませんでした。

ゴルフ後はクラブハウスレストランにて昼食を兼ねた懇親会を行いました。ゴルフ談議に花を咲かせ楽しい時間を過ごし、会計をメた所でH氏の奥義「追加!」が炸裂。再びメ直した後に今度はT氏が「ビールお代わり!」幹事泣かせの金属団地メンバーで高橋所長をやきもきさせてしまいました^^;



【日曜日 観光組】

朝6時50分にホテルを出発した観光組5名は、線路ギリギリに軒を連ねる市場で有名な『メークローン市場』と、タイで一番規模の大きい『ダムヌンサドゥアク水上マーケット』に行ってきました。メークローン市場は海外からの観光客でごった返し、列車が駅に到着する頃には、列車の進行に合わせて店の軒を畳む風景の撮影会です。ただでさえ蒸し暑いタイでこの人だかりは堪えます、汗が吹き出し止まりません。現地ガイドが安くておいしいと言って買っていくハエが集った市場の食材は買う気にならず、撮影を終え早々に次ぎの目的地に移動です。

水上マーケットの前に寄った『ココナッツファーム』でココナッツオイルをお土産に購入した後、バスからエンジンの付いたボートに乗り換え市場に向かいます。水路がまるで地上の道路のようにあちこちに走っており、水の上に建つ高床式の家ではタイの生活がゆっくりと営まれています。ボート

がすれ違う時や曲がる時に水路の水がはね、顔などにかかるのには参りましたが、到着した市場では何艘も連なって物を売る手漕ぎボートを見ることができ、木彫りや銀製品等のタイ土産を見て回り、現地ガイドからもらった揚げバナナやモンキーバナナを食べ、昔ながらのタイを感じることができました。

昼食はバンコクに戻り、『マーブンクロンセンター』の8番ラーメンで餃子セットを食べ…日本より少しラーメンの汁が少ないかな・・・



それにしても昨日からちょこちょこ両替していますが、場所に寄って換金レートが違います。繁華街では1万円で2,800Baht程になりますが、ホテルや空港では2,500Baht程度で10%強の違い…日本円で¥1,000程違います！両替所も沢山あるので少しでもレートの良い所を探して結構歩きまわりました。それぞれ集合時間までお土産を購入し、その後ホテルに戻りました。

【日曜日 夕食】

18時にホテルにてゴルフ組と観光組が合流し、市内から少し離れた『Savoey River View レストラン』へ移動。チャオプラヤ川沿いでとても雰囲気の良いレストランです。円卓を囲んで海鮮を中心としたタイ料理を堪能しました。あっちのテーブルで「バーボン、ボトルで追加！」と叫んでいる人がいます…(笑)



【月曜日視察 午前】

今日のモーニングコールは5時30分、朝食を済ませ7時にホテルを出発。バンコク市内の渋滞を避けるため連日朝が早く大変です。9時に最初の訪問先である PRONEC 社様に到着。

埼玉県に本社があり、業種はコイル及びコイル Assy 製品の製造販売です。カメラやCD/DVD マウント部の X-Y-Z 移動コイルや医療機器、車載用回転センサーに使用されるソレノイドコイル等を製作しています。面白いものでは野球場の得点表示板用の磁気反転ユニットも作っています。材料入庫→仕入れ検査→製造→組立・実装→製品検査の順で工場を案内して頂きました。線径がφ0.02～φ0.1mm程度の微小なコイルが多い為、組立ラインの女性の方々は本当に繊細な作業をされています。巻き線機も特殊な専用機で自社開発を行っており、外販もされているそうです。



日本電産の仕事にあわせてタイに進出し一時は1000人規模の工場だったらしいのですがラオスへの投資失敗から2016年会社更生法に基づき韓国系外資の「匠堂」のグループ企業となりました。現在の従業員は340名で2017、18年の2期連続黒字だそうです。ラオス投資失敗の理由を聞くと、タイとは違って工場経験の無い従業員がほとんどで、品質不良や教育の難しさ、農作業繁忙期に人がやめてしまう、そもそも人口が少ない等のさまざまな要因があったそうです。微細製品で技術レベルが高く難しい仕事だと思いましたが、労働集約的な工程の多さや大量生産品が故の大手企業との競争など、大変な苦勞をされていると感じました。



次に訪問したのはP.K polisher&Part 社様。設立は2004年で業種は金型磨き、プラスチック成型用金型製作、金属加工です。台湾製のMC6台、放電加工機等の設備があり従業員は20名程度。金型の磨き専門会社からスタートしただけあって磨きの腕は一流です。女性社長さんも磨き畑出身です。視察時には自動車ランプ向け金型を＃10000程度の粒度までピカピカに磨き上げていました。タイは自動車産業が盛んなので自動車向けの金型需要は多いそうです。設備や作業風景、組み上げた金型のどれを見ても日本と遜色が無いレベルだと感じました。



【月曜日 昼食】

その後、ガソリンスタンドで昼食をとりました…。視察研修も3日目となりタイの環境にも慣れてきましたが、幹線道路では日本のドライブインのようなものが無く、郊外のガソリンスタンドにはコンビニや飲食店が併設されていて道の駅代わりになっています。トイレも『小』の方は建物外にあり、慣れるまでは中に入ってしまった「あ、大だった!」と再び外に出ると言う事を繰り返しました(笑) スコール等で大雨が降っていたらどうするのだろうか?との疑念がわきましたが、暑くて直ぐに乾くから多分問題にならないでしょう。また、道中バスの振動が酷く、左車線しか走らない(スピードが遅い)理由もガイドさんから聞きました。3車線の高速道路ではバスやトラックなどの大型車は左側通行を強要されており、左車線だけ道路の痛みが激しいからです。どうりで車窓から見える中央と右車線は綺麗だと思いました。そんな説明を受けながら右側を走っていった観光バスが覆面パトカーに追いかけれ…

【月曜日視察 午後】

昼からの見学はタイ丸順社様です。大垣に本社があり、タイ工場は今年創業25周年、業種はプレス加工で自動車用車体プレス部品、自動車用精密プレス部品の製造を行っています。上場会社の海外工場だけあって今回の訪問先では最大の広さで、従業員も800名以上います。本田自動車様を始めとしたほぼ全ての自動車メーカーと取引があります。

バーコード管理された工程管理場を抜けると最初に目に入ったのは24台のロボット溶接機が動くサブアセンブリ工程。2年前までは1人1ラインでしたが現在は1人2ライン動かせるよう改善されたそうです。続いて、車体用部品を手掛けているプレス機ライン。プレス機のサイズも大きく、600tが2台に800t、1200tが各1台ずつ稼働しています。空調が効いてない割にはそれほど暑くもなく、天井の高さや壁のシャッターの解放により熱が籠らない工夫をされているそうです。最後に、バリ取りライン→塗装ラインを抜けて1時間程見学を行いました。



その後事務所に帰って質疑応答を行いました。特に印象に残ったのは2011年タイ大洪水時の話です。ちょうど工場移転の最中だったのですが、設備の大半が水没し引っ越し作業も含めて大変だった事、取引先の組立工場も水没して生産が止まり本当に苦労したそうです。また、従業員の定着率を上げるために福利厚生面は特に気を使っておりボーナスを始めとして各種手当にお祝い金、社員旅行にパーティーイベントなど日本よりも充実しているのじゃないかと感じました。賃金もこの30年で4倍となりましたが離職率は高く、従業員の定着は本当に難しいそうです。



【月曜日夜 懇親会】

18時前に懇親会の行われる『グレート上海レストラン』に到着、会場では本日お世話になった企業を含めローカル企業、埼玉県からの進出企業、人材紹介会社と挨拶を済ませ、懇親会が始まりました。

参加人数は金属団地側12名を含んだ26名、まずは金属団地側の自己紹介、続いて、食事をしながらプロジェクターを使っの埼玉県企業5社のプレゼン、ローカル企業及び人材紹介会社の自己紹介と充実した時間が過ぎて行きました。金属団地にも海外に工場を構える企業が数社ありますが、異国の地で商売をするということは、並大抵の苦労ではないことが、昼の研修とこの懇親会で強く感じました。懇親会後はスクンビット繁華街を散策し、まだ語り足りない金属団地メンバー5人は居酒屋『世界の山ちゃん』に場所を移して夜が更けるまで熱く反省会を行ったのでした(笑)



【火曜日視察 午前】

最終日のモーニングコールは6時、相変わらず早起きです。朝食を済ませ7時30分にホテルを出発。南東へ高速道路を2時間半くらい走り、今井理事長の工場「IACタイランド」を表敬訪問しました。敷地面積9.6平方キロメートル、5つのエリアに約300社が立ち並ぶ巨大工業団地内にあり、従業員数285名、工作機械約130台が立ち並ぶ大きな工場です。以前、青年部研修旅行で訪れた所から引っ越しされていて場所が変わっていました。現在の工場も手狭になってきている事から、さらなる引っ越し計画があるそうです。

業種は部品加工で自動車用部品が主力商品です。日本でのアルミ加工のイメージとは違い、こちらでは鋳造品(FC及びFCD)の加工が多いです。NTN様向けの等速ジョイントを始めとして、デフケース、タービンハウジングなど多種多様なものを取り扱っています。工場内は整理整頓され5Sが徹底されている事が見てとれます。社員さんのお誕生日会掲示板もあり、ローカル企業は人の使い方が上手いとの話がありましたが、この辺りの福利厚生面は参考にされているのかな?と思います。

30分程工場見学をした後、事務所へ移動し、2005年にタイに進出してから黒字化するまでに7年を要した事、経済が拡大している時にしか新規受注がもらえず新規開拓が難しい事、24時間稼働しないと利益が出ない事等の苦労話を伺いました。また、自動車関連だけではなく早くタイにおいても航空機器関連の仕事がしたいとの事でした。





【火曜日 昼食】

今井理事長は別の仕事があるためIACタイランドを見学後にお別れし、11名で海鮮料理『ムシアロイ シラチャレストラン』で昼食をとりました。ここは平成19年に青年部が同社を見学した時に食事をした思い出の場所、生簀ではエビやカニ、シャコがわんさかおり、巨大水槽の中では2m位あるビラクルが沢山泳いでいました。大きなシャコを刺身で食べることができるとの情報を得て店で追加注文をするも、生ではお勧めしないと断られ、シャコのガーリック炒めに変更、H氏が薦める蟹カレーも「追加！」し、結局追加した料理が一番美味しかったという皮肉な結果となりましたが一同大満足の満腹となりました。



【火曜日視察 午後】

この後、ホテルに戻る前に、今回お世話になった岐阜信用金庫バンコク駐在員事務所を表敬訪問のつもりが、その立地条件の良さにド肝を抜かれました。スクンビット地区に建つ高級ショッピングモール・エンポリアムと繋がって建つ高層ビルに事務所があり、エレベータで上がるにもセキュリティを通る必要があります。事務所からの眺めは絶景で、日本の銀行もいくつか事務所をこのビルに構えているそうで、日夜情報交換をしながらビジネスマッチング等、顧客サービスの向上を図っているようです。事務所内にはカメラが何台も設置されており、日本の本部では今この映像が見られていると説明され、背中が真っすぐになりました。十六銀行は少し離れたホテルオークラの近くに、大垣共立銀行はルンピニー公園の近くにそれぞれ事務所を構えていると聞き、日本の銀行が如何に海外マーケットを重要視しているか窺い知ることができました。



【火曜日 夕食】

その後、岐信事務所を出発したのですが、バンコク名物の大渋滞に巻き込まれ、ホテルに着いたのは17時、急いでシャワーを浴び帰国の用意をし、18時15分に無事ホテルをチェックアウト、タイ最後の食事場所『コカレストラン』へ向かいました。ひとつの丸テーブルに11名と少々狭かったですが、全員の顔が見られるという意味では、タイ視察研修の総括にうってつけの夕食だったように思います。皆で同じ鍋のタイスキをつつき、この視察旅行について語り合いました。

【水曜日 エピローグ】

食事を終えて空港に向かい、お世話になったガイドさんと愛嬌たっぷりの運転手さんに別れを告げ、現地時間13日午前0時05分にタイを飛び立ち、日本時間7時30分にセントレアに無事戻ってきました。今回は金属団地としては初海外研修となり、参加メンバー 12名の内訳は組合役員が8名、企業代表者及び役員が2名、中央会職員1名、組合職員1名の構成で行ってきました。このような事業が来年度以降もあるかどうかは未定ですが、何事にも始まりはありますので、この海外視察研修が何かのきっかけになるよう、組合で検討していく必要があると感じています。

最後になりましたが、この度の海外視察研修において多大なるご協力をいただいた岐阜信用金庫バンコク駐在員事務所の高橋所長をはじめ埼玉県タイサポートデスクの久保様、大村様、益雪様、今回訪問をさせていただいた企業各社、懇親ゴルフ及び懇親会でご一緒させていただいた企業の方々に誌面ではございますが感謝を申し上げ、今後益々のご健勝とご繁栄をお祈りいたします。



MASUKU

今年もインフルエンザウイルスが猛威を振るい、弊社も最高6人/日の欠勤者が出て、1月の製造計画は大幅に狂い、“てんやわんや”の年初めを迎えました。しかし、今年に限っては、そこそこの対策をしたにも拘らずこの有様です。一昨年を振り返ると、組合管轄の予防接種は、ワクチン不足で急遽取り止めになり、不十分な対応の為、社内大流行を引き起こしました。その為、今年は全員に予防接種を打たせました。しかし、結果は、症状は軽減できましたが感染者は12名と25%に上りました。原因を考察したところ、年初の生産会議が極めて怪しい、出席者11名の内5名が感染者であり、狭く密閉された会議室に1時間余り拘束したことが感染拡大に繋がったと考えられる。来年は、人を集める前にインフルエンザチェックを行おうと思いますが、良い方法があったら教えてください。

私がお話したいのは、インフルエンザの事ではありません。先日、テレビを見ていたら、面白い問題について議論していました。“人の眉毛はなぜ残ったか？”と言われて、今まで考えた事がありませんでした。確かに類人猿の頃は全身が毛に覆われ、顔も例外ではありませんでした。しかし、環境の変化と進化の過程において、大事な部分を保護する為に数か所残し、毛は薄くなっていきました。たまたま、この人はすねを大切にしているDNAを持った人、この人は胸を大切にしているDNAを持った人、この人は進化が速いDNAを持った人と思う事があります。しかし、眉はなぜ必要なのか？まつ毛は、ゴミが目に入るのを防ぐ為に必要であると理解できますが、眉は？に対しての回答に感心しました。そもそも現代人の祖先はホモサピエンスとされています。この時期にはそれ以外にも幾つかの類人猿が生息していたにも拘らず、ホモサピエンスが生き残りました。その最大の能力は、集団性と言われています。体の小さかった彼らが大きな獲物を捕獲する為には、集団で役割を決め、コミュニケーションを取る必要がありました。しかし、この時期はまだ言語が発達していなかった為、顔の表情と声で意思を伝えたと考えられます。すると眉の意味は重要度を増してきます。人の顔から眉毛が無くなると、そう、強面の人が連想できます。私達は、怖い人のイメージと共に表情が無い事への恐怖心に関わりたくないに繋がります。しかし、いたずらで眉毛を描かれた野良犬に愛嬌を感じてしまいます。と言う事は、人の表情において眉毛は極めて重要な要素であると言えます。そして、眉毛と共に重要なのが目です。ここで、人の目と動物の眼には大きな違いがあります。1つ目は、人の目が前方に位置するのにに対して動物は側面に位置します。これは、視覚範囲を広げ外敵を逸早く察知し、身を守る為と推測されます。それに対して人は外敵から身を守る為に集団生活をし、集落自体が一つの生物の様に役割を果たし対応したと考えられます。つまり、視覚範囲を広げるより意思伝達を優先する為に目が前方に寄ったと考えられます。そして2つ目は人の眼は白目があるのに対して動物には白目が殆ど見えない。これは、“目は口ほどに物を言う”と言われますが、白目と黒目の分量を調節する事により、自分の意思をより強調して伝える効果が期待できると考えられます。しかし、動物が天敵に對峙した時、表情により思考が読まれる事は死に直結します。すなわち、“ポーカーフェイス”、無表情が最大の防御に繋がります。しかし、ヒトの進化はここに留まらず、さらに大きな集団を形成すると共に、より正確に多くの人に意思を伝える為に言語を開発する事となります。

ここで、ホモサピエンスから分岐したアングロサクソン(欧米人)と黄色人種(日本人)を比較すると、また、違いが有り面白いです。欧米人の目は、紫外線に弱い事もありますが、サングラスで目を隠し、自分の主張を捲し立てる様に通すのに対して、日本人は“沈黙は金”とか“口は災いの元”と言われ、言葉以上に表情と雰囲気て意思を察し、行動で表現する傾向にあります。ここで、インフルエンザに

戻ります。日本では、冬場になると当たり前のようにマスクをした人を街角で見掛ける様になります。しかし、海外の人は意外にマスクをしていない様に思います。海外の人にとってのマスクは、PM2.5・花粉の様に外部から体内に有害物質を入れない事を目的として使用されている様に感じます。しかし、日本人は予防以上に他人に病気をうつさない為にマスクをします。最近、報道番組では政治家の余分な一言に右往左往し、ネット上では炎上騒ぎが日常化していますが、我々には別の意味でのマスクの必要性が高まっているのかもしれません。

タンパク



青年部コーナー

青年中央会講演会と新春懇親会

2月1日(金)、岐阜市のグランヴェール岐山にて、岐阜県青年中央会の交流事業として講演会と懇親会が行われ、2名(他青年部名義での参加を含めると3名)が参加しました。

近頃話題の働き方改革をテーマに、「ブラック企業アナリスト」新田龍先生にご講演いただきました。企業も意識改革を行い、これからの労働のあり方に適応しないと生き残れないというお話に、みなさん真剣に耳を傾けていました。

講演会のあとは恒例の新春懇親会が開かれ、改めて新年のご挨拶をしつつ異業種の方々と交流しながら和やかに過ごしました。

ちなみにこの講演会は、岐阜県中小企業団体中央会の組合青年部強化研修会という事業により補助金を受けて行われています。各組合青年部の研修事業への補助も受けられるので、青年部でも活用してみようと思います。



東京視察研修（大野会長）

1月25日から26日にかけて、岐阜信用金庫さんの取引先の若手経営者会「ぎふしん青年重役会」の宿泊研修として、東京視察に行っていました。

新幹線で東京駅へ着くとすぐに貸切バスに乗り換え墨田区へと向かい、両国名物のちゃんこ鍋をいただきました。明治から大正初期に活躍し史上最強ともいわれる横綱太刀山を輩出した相撲部屋の跡地で、元小結巴潟(ともえがた・第九代友綱親方)が開業した「ちゃんこ巴潟」です。意外だったのは特に高カロリーな食事ではなくいたってヘルシーな鍋だったことです。理想的な栄養バランスこそが力士のパワーの源という事ですね。

その後、墨田区で精密板金加工を営む「(株)浜野製作所」さんを見学させていただきました。二代目の浜野社長は、若くして先代の社長であるお父様や専務のお母さまが亡くなられ、その数年後にはもらい火事で工場が全焼、おまけに賠償交渉相手の住宅メーカーが倒産という想像を絶する艱難辛苦を乗り越えて、現在では天皇陛下が在位中最後の行幸にいらっしゃるまでのすばらしい会社を作り上げ

られました。我が社も業種は似ているので、火事からの再生と発展のお話にも興味があったのですが、浜野社長は大変情熱的でお話し好きな方で、会社の経営理念や前述の災難のお話だけで時間が軽くオーバーしてしまい、お話はそこで終了となってしまいました。仕事のことを語り出したら止まらないこの情熱こそが人を惹きつけ仕事を引き寄せるんだろかなと思いました（情熱的で話好きな社長さんはいい社長さんが多い気がします・・・身近にも何人か心当たりがあるような）。

浜野製作所をあとにし、大相撲初場所が行われている両国国技館へ向かいました。相撲は愛知県体育館で見たことはありましたが、相撲専用スタジアムは一味違いました。稀勢の里はすでに引退していましたし休場力士も多く、少し寂しい顔ぶれでしたが、熱気あふれるいい雰囲気の中観戦でき、結びの一番では白鵬が敗れる波乱で座布団乱舞も見られてみなさん大興奮でした（白鵬も翌日から休場）。

夜はホテルにて、東京東信用金庫さんの若手経営者会「ラパン」さんのメンバーと交流会を行いました（浜野社長は初代会長で現最高顧問）。我々が金属団地は立地に恵まれているが、東京では土地の価格や近隣への騒音など東京ならではの悩みがあるといったお話を聞いたり、海外での営業で足踏みしているという相談に対し現地の知り合いを紹介しますよというふうには早速お仕事につながるお話をされていた方もいらっしゃいました。遠隔地で資本関係のない銀行の若手経営者会同士がコラボするというのは非常に珍しいということで、大変貴重な機会になりました。

翌日は朝から、昨年10月に開場した豊洲市場を見学しました。土曜日という事もあり午前中から多くの人が見学に訪れていましたが・・・いわゆる「市場感」は全くと言っていいほど無いです。ゆりかもめの駅を出ると目の前に綺麗なビルが並んでいて、「どこが市場？」さらに人の流れに乗って建物の中に入ると、ガラス窓の向こうに市場の様子が少しだけ見えました。築地の時に多くの観光客を集めた飲食店街もビルの中に移設されていますが、その佇まいはまるでイオンのフードコートのように。趣も何もあったもんじゃありません。

昼食会場は築地のすしぎんまい（正月に初セリのマグロを史上最高値3億円で落札した例の社長さんのお店）だったので、昼食後に築地場外市場を散策しましたが、不思議なことに市場はすでにないのにこっちのほうが市場らしい雰囲気でした。バスガイドさんも「個人的には築地のほうが好き、豊洲と築地どちらか片方選ぶなら築地をお勧めする」と言っていました。散々もめた土地の問題以前に、そもそも本当にこれでよかったのか、観光のための施設ではないとはいえ「移転前の方がおすすめ」と言われるようで成功といえるのか、と考えさせられました。会社も仕事も「前のほうがよかった」などと言われることのないよう、進歩し続けなくてはならないと思いました。



オフィスリニューアル 三島精器(株)

『働き方改革』、最近いたるところで耳にします。

働く場所は、工場や店舗であったりするわけですが、本来、オフィスはデスクワーク、いわゆる作業をする場所ではなく、もっと考えることやイマジネーションを豊かにしたり、頭を使う知的労働のための場所でありたいと思います。

今、世の中で求められているワーカーの働き方、あるべき姿、まさにオフィスこそ働き方改革のベースになるはずです。

『We Work』という会社を皆さんご存知ですか？

最近、東京で話題になっている会社です。この会社の世界でのロケーションは、197都市564ヶ所にあります。一言で言ってしまうと、世界中で賃貸オフィスを供給している会社です。

しかし、少し違うのは、オフィスというハードの不動産賃貸だけでなく、入居者に様々な『バリュー』を提供している会社、『コミュニティ』を提供する会社なのです。

受付カウンターには専任スタッフが配置され、コンシェルジュの役目も果たします。

1階はスターバックスのようなカフェスタイルで、打ち合わせも可能だし、PCを持ってきてリラックスして仕事ができるし、ひとりでお茶をしている人もいるし、外来者と談笑したり、夜にはバーになったり、いろいろな企画によりパーティーを開催したりと多種多様に使え、入居者同士がコミュニケーションをとり、場合によっては商談にも発展します。

2階は会議室や共有ワークスペース、3階以上はプライベートオフィスとして様々なサイズが用意されており、ITを駆使したサービスも用意されています。

彼らのミッションは、美しいシェアオフィス以上のものを創りたい。それが、コミュニティです。おもしろいオフィスの形態です。まさに、これがサードスペースかもしれません。オフィスを見直して、働き方を変えてみることも重要ですね。

《サードスペースとは：ファーストスペースは“家”、セカンドスペースは“会社”、サードスペースは“お気に入りの場所”という意味です》

さて、当社も今回、オフィスをリニューアルしました。

従来のメーカーとしてのオフィスから、来訪者や自分たちに刺激を与える働きたくなるオフィスを目指しました。床・壁・天井すべてリニューアル。一番不安だったのは、電気配線。なんせ古い建物で、漏電によるネットワーク・データ破壊が以前から心配でした。

ちょうどチャンスの時かなと、社内スタッフと取りかかりました。オフィスの中にモニターを2ヶ所設置して、工場内風景も見えます。会社全体に一体感を演出しました。昨年LEDに変え工場内もかなり明るくなり、電気コストも大きく削減でき、環境にも配慮しました。

グループ会社の(株)三島は販売会社、そして三島精器(株)はスチール家具製造会社です。

最近のオフィス家具の傾向は白色中心の単調な感じで、あったかみに欠ける傾向があります。そこで、ぬくもりを感じる木をたくさん入れました。木には消臭作用もあります。

特に商談室では、中にいる人を見渡せるように、ガラスを多く入れました。お客様の来訪もわかり、失礼のない対応ができるように配慮しました。

(見え過ぎると、少し不満もあるようですが……)

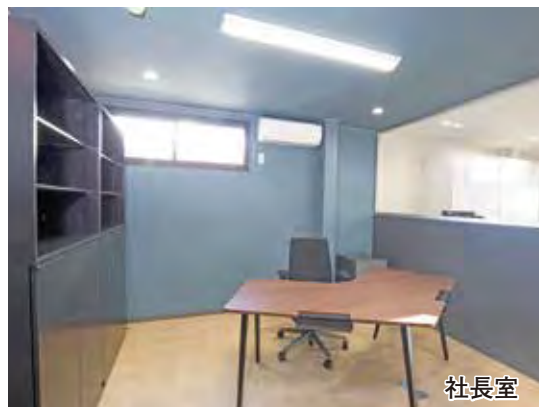
事務机は、個別デスクではなく大きなテーブルを使い、多人数にも対応できるようにしました。
風通しの良いオフィスが完成しました。皆さん『まあまあのオフィス』に一度遊びに来てください。



エントランス



ミーティングスペース



社長室



総務オフィス



営業オフィス



営業オフィス



ミーティングルーム



ミーティングルーム



H32“新規高卒獲得”のための準備として その1

新規高卒求人企業の各種情報紹介

先月号では、教育の仕組み（産業技術学園）を整備することのメリットについて述べさせて頂きました。今回は、岐阜県内の工業系高校に求人をしている企業の求人情報を提供させて頂きます。これは、岐阜県高等学校教育研究会工業部会事務局（岐阜工業高校内）と共同で調査したものです。

高教研工業部会事務局では、県内11校の工業系高校の教育活動を円滑に行うことができるように、様々な活動を行っています。その一つが、県内工業系高校の進路情報の調査で、年度末に各工業系高校の求人&内定状況、求人企業情報、進学状況等を取り纏めています。その一つが表1です。

		県内企業						県外企業		
		各務原市	岐阜地区	西濃地区	中濃地区	東濃飛騨	県全体	愛知県	関東地区	関西地区
調査企業数		85	280	108	84	23	580	358	309	88
離職率	3年以内離職率	20.6%	28.5%	32.1%	19.1%	43.1%	26.4%	9.4%	30.3%	33.0%
	2年以内離職率	12.0%	19.1%	18.7%	14.7%	32.6%	17.1%	10.0%	23.2%	23.7%
	1年以内離職率	8.7%	13.5%	5.9%	11.1%	13.7%	10.7%	11.1%	17.4%	17.2%
	1～3年離職率	13.1%	20.3%	18.2%	14.8%	30.3%	17.8%	10.1%	23.6%	24.4%
規模平均	資本金（万円）	155,520	54,672	402,853	184,377	46,172	152,733	1,381,547	360,425	1,107,716
	従業員数	509	214	501	2,505	435	651	5,685	1,876	3,001
待遇	初任給	164,745	162,879	166,405	165,253	163,955	164,196	166,757	173,015	163,880
休暇制度	週休二日制	34	64	28	30	5	161	145	129	23
		40.0%	22.9%	25.9%	35.7%	21.7%	27.8%	40.5%	41.7%	26.1%
	自社カレンダー	51	216	80	54	18	419	213	180	65
		60.0%	77.1%	74.1%	64.3%	78.3%	72.2%	59.5%	58.3%	73.9%
	年間休日数	109.7	107.0	109.1	111.5	106.6	108.4	111.5	109.7	107.8
教育	大学等への通学可	2	14	5	5	0	26	35	21	5
		2.4%	5.0%	4.6%	6.0%	0.0%	4.5%	9.8%	6.8%	5.7%
	学園保有	0	1	0	0	0	1	22	2	0
		0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	6.1%	0.6%	0.0%
福利	寮保有	19	45	35	35	11	145	194	236	57
		22.4%	16.1%	32.4%	41.7%	47.8%	25.0%	54.2%	76.4%	15.9%
求人	学科指定あり	60	117	49	35	8	269	122	67	14
		70.6%	41.8%	45.4%	41.7%	34.8%	46.4%	34.1%	21.7%	15.9%

表1 平成30年度に岐阜県内の工業系高校に求人をしている企業の情報

調査企業数は1,335社、業種は、製造業、建設業、運送業、卸売業・小売業、サービス業、介護福祉業等です。ただし、調査企業が工業系高校への求人企業のため製造業、建設業が多くなっています。

入社3年以内離職率は、各務原市が20.6%（県全体：26.4%）、愛知県が9.4%（学園保有企業：1.9%）、関東地区が30.9%、関西地区が33.0%となっています。各務原市内の企業は、他の地区と比較して3年以内離職率が低い状況ですが、それでも5人に1人が離職をしている状況です。早期離職者が多いということは、企業にとっては大変大きな“損失”であり、人材不足の要因の一つになっていると考えています。

岐阜新聞1月16日付けの「2019新春・経済団体トップインタビュー」（9P：経済面）で、県経営者協会会長の小川信也氏が、「新卒者の定着を図るため、入社後の教育を支援していく。他団体と協力しながら、ニーズに合わせて提供していきたい。」と述べられています。この、新入社員の獲得・教

育の仕組みについては、昨年の9月号から先月号まで6回にわたって述べさせて頂きましたので参考にして頂ければと思います。高校生が受験企業を選ぶときに重視するのは、①仕事の内容(学科の学習内容に関係あり：学科指定あり) ②初任給 ③年間休日数(休暇制度)の順となっています。(岐阜工業高校機械系2年生120名への進路意識に関するアンケート結果より：H31.1.24実施)

初任給については、関東地区の建設業で20万円を大きく超えている企業が何社かあったことから173,015円と高くなっていますが、他の地区は16万円台の半ば前後と大差ない状況です。が、県内企業の中には19万円台の初任給で新規高卒獲得をしているところも出てきています。

年間休日数も、各地区とも107日～112日と大きな差は出ていません。ただし、建設業では、年間休日数が2ケタ台と他の業種と比較して少ない企業が多い状況となっています。関東地区の建設業では、“週休二日制実施”の企業が多くある状況となっています。この2、3年で関東地区の建設業関連企業に就職をする生徒が、複数の工業系高校で何人か出てきている状況です。

福利厚生面では、“寮の保有状況”に大きな差が出ています。各務原市は22.4% (県全体：25.0%)、愛知県が54.2%、関東地区が76.4%と高い状況にあり、九州や東北地区の広域からの新規高卒者が安心して就職できる環境が整備されています(飛騨地区の母親の心配事の一つは「どんなところに住むの?」です。)。少子化で企業が所在する周辺の高校からの採用が厳しさを増していく中で、“採用活動の広域化”と“寮の保有状況”が、市内企業にとって大きな課題になると考えています。

仕事内容の情報提供については、“学科指定あり”での求人が、各務原市は70%を越えており、工業系高校の生徒にとっては“自分が学んでいる専門性を活かすことができる企業選びの状況”となっています。愛知県や関東・関西地区では、「専門性を求めた求人が3分の1以下」と極端に低い状況であり、「高校生なら誰でもいい。」という(とにかく人手を採りたい) 企業側だけの思いで求人活動をされているのではと思っています。これでは企業の思いは生徒や保護者、教員には正しく伝わりません。

企業の経営者や採用担当の皆様は、表1をご覧になってどのような感想をお持ちになったでしょうか? 高校生たちは、様々な企業情報を比較して自分が受験する企業を決めていきます。新規高卒の採用活動には“ライバル企業”が存在しています。求人企業は、様々な機会や媒体により“自社の情報”を高校生やその保護者に提示して、興味・関心を呼び起こし、自社の応募に繋げていかなければなりません。そのためには、ライバル企業(業界)の動向を知ることも大切になってくると思います。今年度の自社の求人活動を振り返って頂き、H32の新規高卒採用獲得に向けて“(愛知県の)ライバル企業に勝てる”対策を立て、自社の認知度を高める活動(生徒や保護者から選ばれる企業になるために)をして頂ければと思います。

企業人材全力応援室では、雇用に関する様々な“情報”を“収集・分析”して市内企業等の皆様に提供させて頂いています。提供させて頂いた“情報”を“活用”して“戦略”を立てて頂き、経営者が“決断”をして、採用担当者だけではなく企業が丸となって“実行”していく(新入社員教育の情報提供とその実施を含めて)ことが、H31新規高卒獲得のための第1歩です。

企業人材全力応援室では、企業の皆様からの新規学卒採用等に関するご相談をお待ちしていますので、お申し付け頂ければと思います(電話番号：058-383-7236：直通)。市内企業等の皆様の採用活動を“全力で支援”させて頂きます。

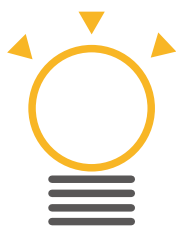
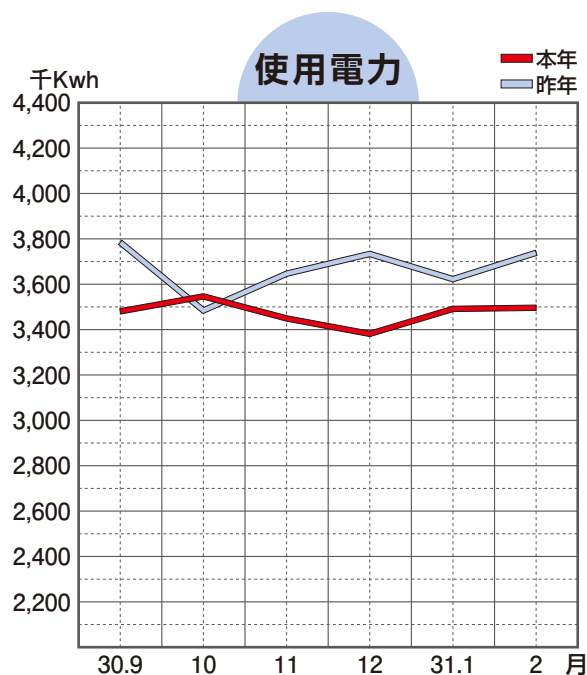
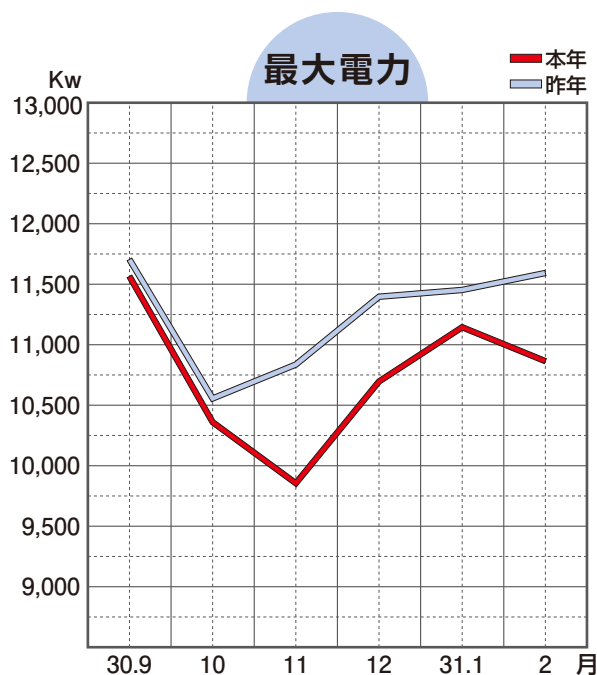
今回は、今年度の新規高卒採用の総括について述べさせて頂く予定です。

(文責：各務原市商工振興課企業人材全力応援室長 長屋千秋)



お知らせ

平成31年2月分電力使用状況



電気は正しく使いましょう!!

電気工事には、資格が必要です

1. コンセントや照明を増やしたい
2. 電気配線を増やしたい
3. スイッチの場所を変えたい
4. 電気配線の修理をしたい
5. 接地工事など

お近くの電気工事店(有資格者)へ御相談ください

電気器具を正しく安全に使用するために

◆注意事項

- ・コードは丁寧に扱きましょう(よじれたまま使用しない)
- ・たこ足配線はやめましょう(テーブルタップの容量に注意)

行事予定

2019 **3** March

16 土	『組合休日』
17 日	
18 月	月例会
19 火	
20 水	
21 木	『春分の日』 中部学院大学 大学院・大学短期大学部卒業式
22 金	
23 土	団地G 『組合休日』
24 日	
25 月	
26 火	各務原商工会議所通常議員総会
27 水	
28 木	役員会
29 金	
30 土	合同企業説明会 岐阜県就職ガイダンス2020(県経営者協会) 『組合休日』
31 日	

2019 **4** April

1 月	
2 火	
3 水	
4 木	
5 金	
6 土	第43回各務原市桜まつり(～7日) 『組合休日』
7 日	
8 月	
9 火	新入社員激励会
10 水	
11 木	岐阜県就職ガイダンス2020(岐阜県経営者協会)
12 金	通常総会(工団連中部ブロック協議会)
13 土	『組合休日』
14 日	
15 月	月例会

■ 5月の行事予定

5月24日 第58期金属団地通常総会、懇親会
5月25日 総会記念G

■ 2月度金属団地ゴルフ会

2月23日 グリーンヒル関ゴルフ倶楽部
優勝 洞田オサム(ホラタ、工業) 2位 林 宏守(中日鋼線) 3位 岩井 章(三星工業)

<http://www.g-mecca.jp>

G-MECCA

GIFU METAL ENGINEERING COMMUNITY COOPERATIVE ASSOCIATION

